

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年1月20日

協議会名: 大槌町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
大槌地域振興株式会社	<p>1 編成前 【運行系統名】 金沢赤浜線(4系統) 小鍬浪板線(4系統) 【実施期間】 令和2年10月1日(木) ～ 令和2年12月15日(火)</p> <p>2 編成後 【運行系統名】 金沢小鍬線(5系統) 循環線(1系統) 【実施期間】 令和2年12月16日(水) ～ 令和3年9月30日(木)</p> <p>利用状況の推移を捉え、運行経路と便数を見直すとともに、利用促進を図るため、自治体広報等を活用した広報を実施するもの。</p>	<p>【前回の評価結果】 (1)一次評価 ・新しいまちの形に合わせた新しい暮らしの足として、住民の暮らしを支える持続可能な公共交通の存続と、効率的な公共交通体系の構築のため、多様なニーズに柔軟に対応できる新たな公共交通手段の検討を進め、地域全体で利用者の利用頻度向上、新規利用者の増加を目指す。 (2)二次評価 ・利用実態等の現状分析を行い、持続可能な地域公共交通サービスを実現するため、次期公共交通計画の策定に反映していくことを期待する。</p> <p>【評価結果の反映状況】 利用実態等の現状分析では、乗降調査や住民・事業者ヒアリングを基に既存の路線や時刻の見直しについて公共交通事業者間のワーキングを重ね、持続可能な地域公共交通サービスを実現するため、令和2年12月16日に全系統の再編成を行った。 内容は、「金沢赤浜線」と「小鍬浪板線」を統合した「金沢小鍬線」の新設した。また、実証運行していた、「循環線」を本格運行し、利用促進に向けて取り組んだ。 また、ダイヤ改正時には、改めて大槌町公共交通時刻表を作成し、乗降者数が多い岩手県立大槌病院や大型商業施設等に配架した。さらに、町の広報誌への掲載を通じて町民バスの利用促進を図った。</p>	<p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p> <p>【評価の判定基準】 A: 計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。 B: 計画に位置付けられたとおり実施されていない点があった。 C: 計画に位置付けられたとおり実施されなかった。</p>	<p>【目標値】 ①町民バス(路線バス)の収支率を25%以上 ②町民バス(路線バス)の利用者数を年間延べ70,000人以上 【実績値】 ①14.31% ②23,948人 【達成率】 ①達成率 57.2% ②達成率 34.2% ※金沢小鍬線(大貫台～きらり商店街～大槌駅)は補助対象基準(1運行当たり2人以上)を達成できなかった。</p> <p>昨年実績と収支率、利用者数を比較すると、大幅に減少した。要因として、新型コロナウイルスの影響による外出自粛等の影響が大きいと推測する。また、町内の人口減少や少子高齢化も要因と推測する。</p> <p>【評価の判定基準】 A: 目標を達成した。 B: 目標達成80%以上100%未満 C: 目標達成80%未満、又は、補助対象外(1運行当たり2人未満、運行割合30%未満)</p>	<p>住民や利用者のアンケートやヒアリングによる現状調査では、特に町民バスと県交通バスの乗継について改善の意見が多いことから、それぞれのダイヤ改正に係る連携を強化し、利用頻度の向上、新規利用者の増加を図るため、誰でもわかりやすい時刻表を作成など、運賃収入の増に向けて取り組んでまいります。 また、令和4年10月からの次期計画には、幹線・支線のネットワーク強化や、利用促進を図る取り組みを掲げ、関係機関と連携しながら取り組んでまいります。</p>